

# CREATE KINKI **クリエイト きんき**

〔テーマ〕若狭～千年の文化と歴史を未来に繋ぐ～

**JCCA** Japan Civil Engineering Consultants Association  
社団法人 建設コンサルタンツ協会 近畿支部

**クリエイト きんき** 〔第5号〕

〒540-0005  
大阪市中央区上町A番12号(建設保証ビル6F)  
本年9月よりビル名が変更になります。  
旧：建設保証ビル 新：上町セイワビル  
TEL. 06(6764)5891 FAX. 06(6764)5892  
<http://www.kk.jcca.or.jp>

発行日：2003年8月18日

ご意見、お問い合わせは、[create@kk.jcca.or.jp](mailto:create@kk.jcca.or.jp) まで







テーマ **1** 若狭 ~千年の文化と歴史を未来に繋ぐ~

特集

- 総説 **1** 歴史文化を繋いだまち 若狭・小浜
- 6** 小浜 ~海に抱かれた歴史と文化のまち~
- 取材 **8** 文化と人と海の恵みを都へ運んだ「鯖街道」
- 12** 若狭路博2003

地域紹介

- 和歌山 **16** 吉宗たずねて和歌山城
- 奈良 **17** 奈良歴史街道の旅

会員交流

- 18** 防護から自然再生へ -海岸とコンサルタント-
- 19** 会員投稿

その他

- 20** 会員名簿
- 21** 業研案内



# 若狭

千年の文化と歴史を  
未来に繋ぐ

## 歴史文化を繋いだまち若狭・小浜

福井大学工学部 助教授 野嶋 慎二

### はじめに

若狭小浜は都（京都）に最も近く天然の良港であったことから、大陸からの玄関口として古来から重要な拠点であった。一千年以上もの昔から小浜を通して大陸の文化が伝えられてきたのである。このため小浜には交易の拠点としての多くの寺社や歴史的資源が残され、歴史文化を体感することができる。このような多くの資源を、壊したり、手を加えて飾ったりせず、派手に発信したりすることもあまり行わなかった町である。これまで生活文化を淡々と育み、良い物を静かに大切に継承してきたのである。

しかし現在少しずつ生活文化を発信し、まちづくりを始めようとしている。このような時に若狭路博は開催されようとしている。これまであまり発信しようとしなかった小浜が何を発信するのか、小浜にとってどのような転機になるのか。若狭小浜の歴史とまちづくりをみることで、若狭路博の意義と今後のまちづくりの方向性を明らかにしたい。



## Profile

野嶋 慎二

福井大学 工学部  
建築建設工学科 助教授



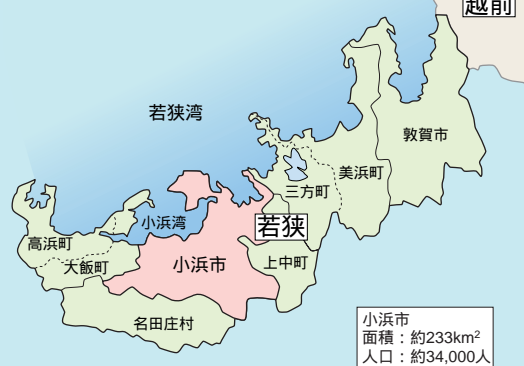
## 主な社会活動

- 大野市都市計画審議会委員 (1998-2001)
- 鯖江市ファッションタウン構想策定委員会委員 (1999-2000)
- 武生市中心市街地活性化基本計画策定ワーキング部会委員 (1999-2000)
- 小浜市都市計画マスタープラン策定委員会委員 (2000-2001)
- 福井市総合計画審議会委員 (2000-2002)
- 敦賀都市計画審議会委員 (2002-)
- 小浜市中心市街地活性化基本計画委員会委員 (2002-2003)

# 若狭・小浜

若狭とは、福井県の南西部、小浜市、上中町、名田庄村、高浜町、大飯町および三方町、美浜町、敦賀市の8市町村の地域です。入り組んだリアス式の海岸線と緑豊かな山に挟まれた自然の恵み豊かな土地です。

中でも小浜は、古代より日本海側屈指の要港で、大陸文化を伝える日本の玄関口として栄えました。現在も小浜市は、国宝や重要文化財が数多く残る、歴史の香り漂う町です。



小浜市  
面積：約233km<sup>2</sup>  
人口：約34,000人

## 1. 小浜の歴史と文化

### (1) 多様な文化が行き交う町

一千年以上もの間大陸文化の玄関口であった小浜は、数々の文化遺産が残されていることから、海のある奈良といわれてきた。また奈良や飛鳥の時代から宮廷へ食材を供給する「御食国(みけつくに)」であった。若狭小浜で獲れた魚や塩を京都に運ぶなど京都との行き来が多く、京文化が小浜に行き交ったのである。運ばれた物資の中で「鯖」が最も注目されたため、物資を運ぶ道は総じて「鯖街道」と呼ばれ、御食国としての小浜の名を有名にした。「鯖街道」は現在魚屋が並ぶ泉町を起点とし、その内最も盛んに利用された道は、小浜から上中町の熊川宿を経由して京都に至る若狭街道である。

1600年関ヶ原の合戦のあと京極高次が入府し雲浜地区に城を築いた後は港町・城下町として栄えた。さらに小浜は江戸時代の半ばから明治時代にかけて北前船の寄港地として北国と近畿を結ぶ流通の結節点としてさらに発展を遂げる。北前船は大阪と北海道を往来し、その途中の港々で商品を仕入れては売り買いする海の商人であった。このため昔の面影を残す街並みは港の周辺に集まっている。三丁町はその一つで、狭い路地に出格子の町家が建ち並んでいる。

このように大陸や京都・奈良や北国との主に物資の交流のなかで様々な文化が行き交い、小浜の文化を築いてきたのである。

### (2) 生活文化の継承

このような文化は寺や街並みだけでなく様々な活動や行事にも見ることができる。

毎年9月14・15日に行われる八幡神社の例祭「放生会(ほうぜかい)」は、地元の人々に「ほうぜ」「ほうぜまつり」の名で親しまれてきた若狭随一の伝統的な祭りである。しかし近年、少子化・高齢化により祭りの担い手が減少し、祭りに対する関心が薄れてきており、コミュニティの衰退にも影響を与えている。これに対し、地元有志により1995年「明日の放生祭りを考える会(明放会)」が結成され、祭りの参加者を増やすネットワークづくりや山車のマップ作りなどの活動を行っている。

奈良東大寺へ送られる「お水送り」は天平勝宝4年(752)から続く由緒ある神事であり、神宮寺はお水送りの寺として知られている。

さらに若狭は伝統工芸の産地として知られており、若狭漆器は400年の歴史があり、若狭塗箸は全国8割以上の生産量を誇る。その他、若狭めいの細工、若狭和紙など、多くの伝統工芸の産地である。

このように、小浜には若狭地方の歴史や風土に支えられた多くの生活文化があり、これを静かに守り続けてきたのである。

## 2. 小浜の都市空間構成の魅力

小浜の歴史文化は、様々な国宝や重要文化財の建築物、仏像・絵画などで見ることができる。そしてさらに小浜へ行くと歴史が感じられ居心地が良いのは、城下町として築かれた歴史的市街地の空間構成が大きく変わらずに継承され、これが魅力的だからである。

図1 小浜城下の街路構成とゾーニング

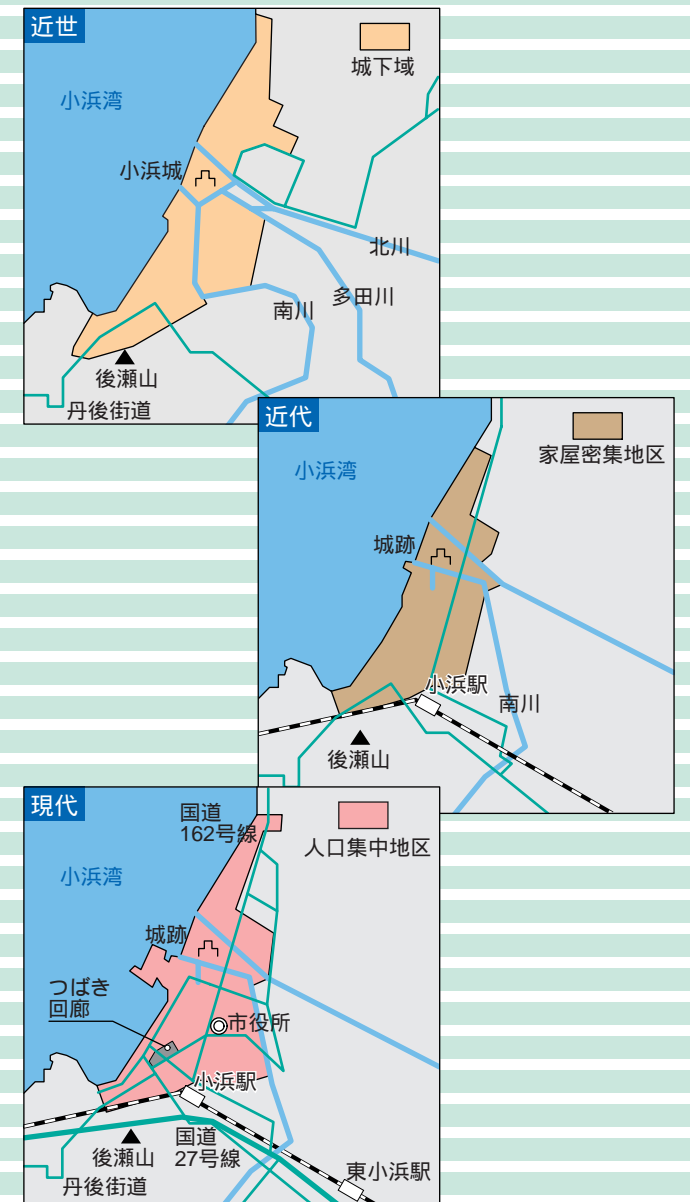


【図1、2ともに「図説城下町都市」佐藤滋+城下町都市研究体著、鹿島出版会(2002)より出典及び作成】

### (1) 城下町小浜の街路構成とゾーニング

小浜は北は小浜湾を有し、南は後瀬山を代表とする山々に挟まれた細長く狭い町である(図1)。1552年後瀬山にまず城を築き城下町の性格を持つようになり、近世に入り城は後瀬山から海側の城址へと移り、町割りが大きく変化した。地形に沿った曲線の街道を通し、城を中心に南部、北東部に武家屋敷を隣接させ、それらを挟むように町人地を配置している。また後瀬山の麓は寺社地で囲まれている。食遣いや行き止まり、T字路がつくれ、遠見が遮断され道幅も一定しない。このような屈曲は、小浜が城下町として形成されていく過程で形成され、城下のゾーニング、城下町の道路形態と一体となり城下町を防衛する役割を担っていた。港町と城下町が融合した独特の空間構成が形成されたのである。

図2 都市の変容過程



### (2) 都市の変容と継承

海と山に囲まれた地形上の制約を受けながら城下町小浜は城を中心に、鳥が翼を広げたような形で発展してきた。近代に入り、鉄道の敷設と南川河口付近の埋立・改修によって、中枢的施設や市街地が現在の市役所近辺に移り、駅を中心とした中心市街地の形成を促した(図2)。現代になると国道162号、27号線沿いに住宅地・工業地が広がり、人口集中地区の範囲が国道162号に沿って北方向へ、また東側へ進行している。

町人地と旧丹後街道が接する西部地区では1993年に再開発「つばき回廊」(ショッピングセンター、図書館他)が完成したが、それ以外は現在に至るまで、大規模な開発が行われることがなかったため近世小浜城下の特色を色濃く残している。



図3 小浜西部地区における歴史的街並みの保存状況とまちなみ整備



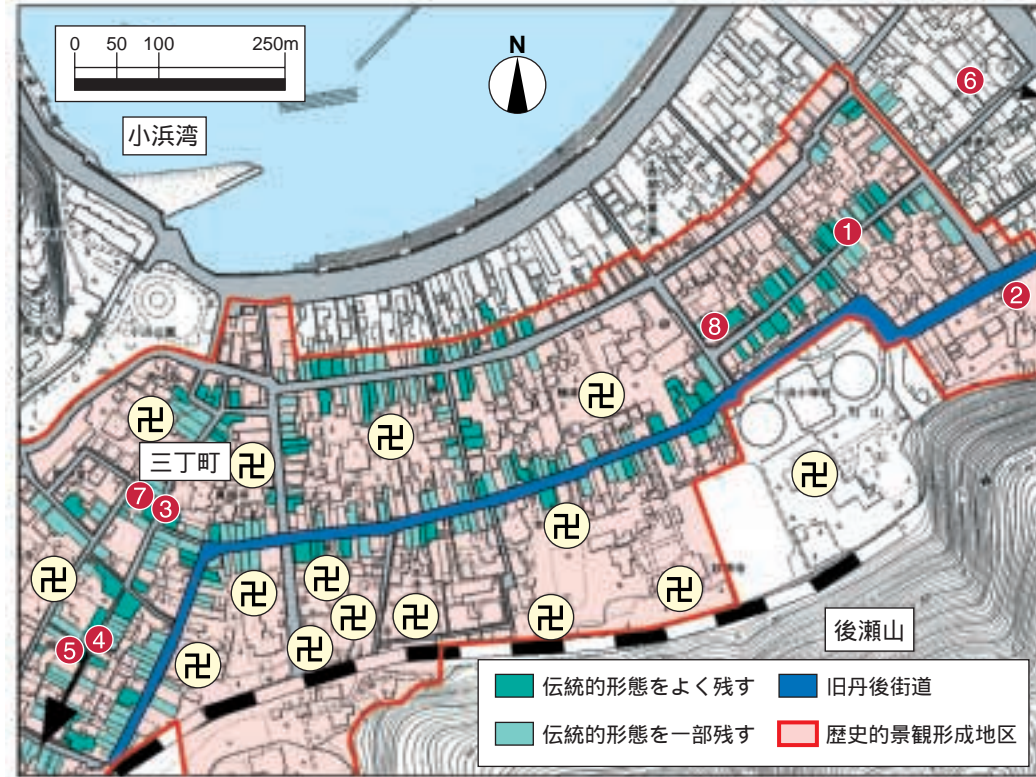
1 老朽化した町家を再生した「小浜町並み保存資料館」



2 八幡神社 - 1200年続いている放生会が行われる



3 料亭を再生した「町並みと食の館」



【「小浜の町並み旧小浜町並み調査報告書」小浜市教育委員会より作成】



4 三丁町の町並



5 三丁町の通りから榎木谷（通称）を望む眺望



6 広市場 - 現在住民の駐車スペースとなっているかつての市場

### 3. 現在の中心市街地関連事業

このような歴史的市街地やその周辺ではどのようなプロジェクトが進められているのか、現在の都市づくりを見ていきたい。

#### (1) 広域交通の整備計画

小浜は昔は鯖街道により大都市との交易が盛んに行われていたが、広域交通の3つの事業を行うことで、さらに関西圏との交流を進めようとしている。

まず鉄道輸送においては小浜線の電化である。小浜線は、大正11年に敦賀・東舞鶴間が開通して以来、若狭地域の通勤通学輸送・ビジネス観光路線として、県内嶺北地方や京阪神・北近畿との連絡輸送の機能をも担う重要な役割を果たしてきた。この「電化事業」は、小浜線全線84.3kmを直流電化するもので、これが完成すると、北陸線と山陰線を電車で直結し、従来の気動車から電車に変わり、より快適で時間短縮となる。

旧丹後街道沿いには近世の町家が、後瀬山麓には寺社が多く点在し、寺社と町家が接した空間が現在でも残っている。空き家を利用した「小浜町並み保存資料館」(写真q)を建設するなど、市民に街並み保存の具体的な事例を示している。また、西部地区の南西に位置する三丁町は近世において花街(遊廓地)として栄え、出格子等、一風変わった独特の景観を醸し出している(写真er)。またこの町家がならぶ通りから榎木谷(通称)の山頂が望め景観も美しい(写真t)。「広市場」はかつて市場が集積していた場所である。路地を抜けると街路が広くなり、広場のような雰囲気を醸し出している(写真y)。

海のある奈良といわれるまちの景観は、多くの寺院によるものだけではない。これら寺院が以前のままの街路構成やゾーニングと一体となって継承されてきたことによって歴史が感じられる町になっているのである。

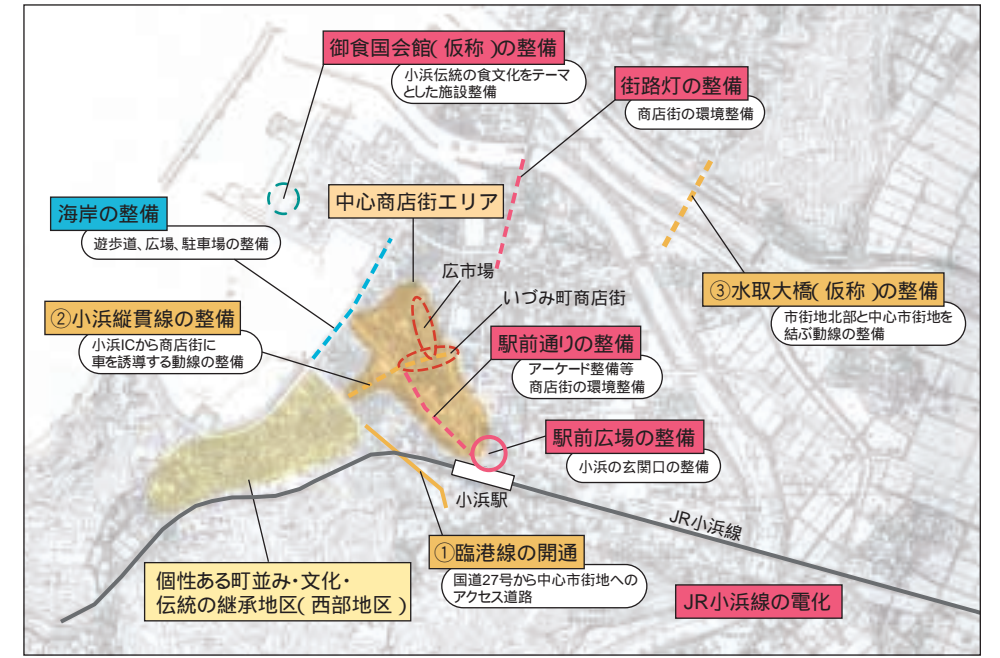
図4 現在の中心市街地関連事業



7 四季彩り館 酔月「町並みと食の館」



8 丹波屋酒店 - 改装して蔵が表に現れ、市民の活動拠点となっている



【「小浜市中心市街地活性化基本計画事前調査報告書」小浜市(2002)より作成】

さらに将来「琵琶湖 - 若狭湾リゾートライン」が完成すれば、上中駅での車両乗り入れがスムーズになり、さらに時間短縮が図られる。

自動車交通においては、近畿自動車道敦賀線の整備が現在行われている。大阪府吹田市を起点として、中国自動車道の吉川ジャンクションから分岐し、京都の福知山市、舞鶴市を経て、当小浜市から敦賀市へ至る延長約162km(中国自動車道の重複区間を除く)の高速道路であり、中国自動車道、名神高速道路および北陸自動車道と一体となり、関西圏・中京圏・北陸圏の広域ネットワークの形成を図ったものである。現在小浜西インターまで開通している。

#### (2) 中心市街地の主要プロジェクト

中心市街地における主要なプロジェクトとしては、まず若狭路博に向けた関連プロジェクトとしてメイン会場となる御食国会館の建設、駅前広場の整備、駅通りのアーケード等商店街環境整備が行われた。

都市基盤整備プロジェクトとしては、中心市街地への車のアクセス向上に向けて、①(都)臨港線の整備(国道27号から中心市街地への導入路の整備)が平成14年に開通し、②(都)小浜縦貫線の整備(いづみ町~住吉・酒井地区の区間)、③水取大橋(仮称)の整備(市街地北部と中心市街地を結ぶ動線の整備)が予定されている。

このように交通基盤整備や拠点整備を中心に整備が行われている状況である。

### 4. 中心市街地活性化計画

平成13年度、14年度の2カ年に渡って、小浜市中心市街地活性化基本計画策定に向けてワークショップや委員会を開催し、中心市街地の課題や将来イメージなどについて話し合った。この結果「食を体感できる街の形成」「個性ある町並み・文化・伝統の継承」「魅力ある産業、市民活動の創造」「継続的なまちづくりを推進する人材・組織づくり」を基本方針に掲げた。

#### 「食を体感できる街の形成」

御食国であった小浜市はまちづくりの資源として「食」を位置づけ、市民参加で「食のまちづくり」を推進していくために、食のまちづくり条例を2002年に制定した。しかしワークショップで「食のまちづくりを進めているのに、おいしい魚を食べられる店が少ない」という意見が市民から多く聞かれた。また「小浜は食材の宝庫だから素材はいいが、それを加工して付加価値を付けることをしない」とも言われる。そこで本計画では、食を体感できる街の形成のための中心となる場所として、鯖街道の起点である「いづみ町商店街」及びそれに隣接した「広市場」に着目している。ここはかつては魚市場で賑わっていた場所であり、いまでも何件か魚屋や食堂が建ち並び面影を残し、中心商店街もここに通じている。ここを新鮮な食材や小浜の食を提供する店舗を集積させて食文化の拠点として再生しようとする計画である。



### 「個性ある町並み・文化・伝統の継承」

これは三丁町を含む西部地区（かつての町人地地区）である。ここを街並みの継承を図るとともに小浜らしい生活スタイルの実現を図り、定住人口と交流人口の増加を図ろうとするものである。平成15年5月にオープンした「町並みと食の館 酔月」は明治初期に建てられた料亭を改修し、小浜市が管理し、御食國小浜の歴史をDVDで楽しみながら小浜の食材を使った食事を楽しむことができる。伝統的な町家を改良して食材を提供する店舗を誘致していく先導的な取り組みを市が行っている。

### 「魅力ある産業、市民活動の創造」

#### 「継続的なまちづくりを推進する人材・組織づくり」

そして重要なのは小浜のまちづくりを支える人づくりである。

「小浜市民は昔から外に伝えるのが苦手なんですよ」市民との会合の中で良く聞く言葉である。しかし、少しずつであるが市民活動も展開している。御食国若狭倶楽部はその一つで、「若狭の食とそれを取り巻く文化のレベルアップと情報発信を図り、若狭地域の発展に寄与すること」を会の目的に掲げている。会のメン

バーは、食に関する野菜や魚を扱っている人や主婦など食に思い入れがある人が集まっている。東京青山291で「ええもんづくし発表会IN東京」を行い、小浜の食材を使った試食会を行う、パンフレット作成、郵便局の協力を得て全国へ名産品の紹介など様々な活動を行っている。

また丹波屋酒店は、使っていない酒蔵を市民活動に開放している。ここはかつて北前船を営んでいてその後酒の製造をしていた。酒工場が移され、空いた蔵を市民組織が少しずつ手を加えた。現在ジャズコンサートや展覧会など市民の活動の場となっている。

### 5. 若狭路博と今後のまちづくり

小浜はこれまで歴史文化を大切に継承してきた街であり、現在、広域交通の整備が進み、中心市街地への入り口となる街路整備、及び中心商店街のアーケード整備や駅前広場の整備など、主にインフラ整備が現在進行している。さらに中心市街地活性化基本計画も策定され市民活動も現れてきた。このようなまちづくりの経緯の中で若狭路博は開催される。

若狭路博は、これまで内に秘めていた小浜の生活文化を発信する大きな機会となる。今後は豊富な資源を

活用し、これらの魅力を高めて発信していくことが必要であり、若狭路博が終わった後に何を行うかが重要な課題となるであろう。

第一に、これらの発信を継続していくことが重要である。若狭路博で得られたネットワークを活用し、大都市への発信を行っていくことも重要であるが、まちなかで小さなまちづくりを持続的にいき、訪れる人に生活文化を発信していくことが重要である。小浜のまちなかには訪れる場所が少ないという意見がワークショップで出たように、魅力的な店、小さなギャラリー、資料館など観光客の足を止めるような魅力的なスポットを作る必要がある。そしてこれは市民が行っていくことが重要である。まちなかにおいて一過性のイベントだけで終わるのではなく、小さなまちづくりを継続的にいき、これらに連動して新しいまちづくりの担い手やまちづくりが生まれてくる。イベントをきっかけとして自律的な動きを継続していくことである。

第二に、まちづくりの担い手を支えていくことである。滋賀県長浜ではイベント秀吉博が終わったあとにボランティアとして参加した高齢者達がプラチナプラザを運営し、まちなかで野菜などを販売した例は有名である。大きなイベントやまちづくりをきっかけとしてまちづくりの担い手が育っていく事例は多い。長浜では黒壁がコーディネーターしてこれを実現したようにコーディネーターの存在が不可欠である。若狭路博に参加したボランティアや市民組織がイベント終了後もまちづくりの担い手として活躍できる環境を整えることが重要である。丹波屋酒店のような町家や蔵を改装して場をつくるなど市民が活動するきっかけをつくることが重要である。

環境整備が整いつつある今、若狭路博がきっかけとなり、市民ベースのまちづくりが進むことこそ小浜にとって最も期待されることである。

#### 参考文献

- 1) 「御食国」市制施行50周年記念市勢要覧、小浜市（2001）
- 2) 「小浜商工会議所HP」
- 3) 「若狭小浜・若狭小浜解体新書・1998小浜市勢要覧」小浜市（1998）
- 4) 「若狭小浜」小浜市・小浜市観光協会
- 5) 「図説城下町都市」佐藤滋+城下町都市研究体、鹿島出版会（2002）
- 6) 「小浜市中心市街地活性化基本計画事前調査報告書」小浜市（2002）
- 7) 「小浜市中心市街地活性化基本計画」小浜市（2003）

## 小浜 ～海に抱かれた歴史と文化のまち～

編集委員：西村 公一

小浜市は福井県の南西部に位置する、人口3万4千人、面積233km<sup>2</sup>の地方都市です。近年、交通基盤整備が急ピッチで進められ、平成15年春には近畿自動車道敦賀線の舞鶴東～小浜西の供用により、大阪～小浜は2時間弱で結ばれ、今後の発展が期待されています。

### 1. 海のある奈良

小浜は古くから日本海の要港として開け、大陸からの文化は小浜から京都、奈良へと伝えられました。このような歴史から、市内の各地には国宝に指定されている明通寺をはじ

めとする古い歴史を持つ社寺や文化財が点在しており、「海のある奈良」と呼ばれています。人口に対する寺院の数が日本一だそうです。

奈良といえば東大寺二月堂の春の行事「お水取り」の水は、市内を流

れる遠敷川の中流にある「鵜の瀬」から送られます。神宮寺では毎年3月2日に「お水送り」の神事が行われ、鵜の瀬の淵から流された清水は、はるか奈良まで届き、二月堂の本尊に捧げられるといわれています。



若狭姫神社



神宮寺の本堂



お水送りの神事



鵜の瀬



三丁町



若狭フィッシャーマンズワーフの店内



いづみ町商店街



湧き水で冷やされた「水まんじゅう」

### 2. 往時をしのぶ町並み（三丁町）

交易の町として栄えた小浜をしのばせる町並みを残すのが、旧遊郭である「三丁町」です。千本格子の家々が軒を連ね、風情のある家並みが続いています。夕闇迫る頃には、芸妓さんの姿も見られ、どこからか三味線の音が聞こえてくるような気がします。

### 3. 御食国若狭：小浜の食文化

「御食国（みけつくに）」は御食（みけ：天皇の御食料）を常に朝廷に納める国のことで、万葉集には、志摩、伊勢や淡路が御食国と歌われて

います。若狭小浜も古来、塩、魚、米などの食材を朝廷に供給する御食国であったことが木簡等で明らかにされています。小浜では、このような史実をもとに「食のまちづくり」をスタートさせ、食文化を支える産業の振興、食の根元である水と森、川、海を大切にす環境の保全等をめざした「小浜市食の町作り条例」制定しています。

町を歩くと、「鯖寿司」「小鯛のささ漬け」といった看板が競い合います。特に「いづみ町商店街」は、特産物である焼き鯖、若狭かれい、ぐじ等

を並べた魚屋が軒を連ね、「鯖街道」の起点地の道標、「鯖街道資料館」等とともに観光客を楽しませています。

### 4. 名水のまち

小浜には、全国に名高い名水が多くあります。先に紹介した神宮寺の「鵜の瀬の水」は環境庁の「名水百選」にも選ばれています。また、小浜城跡近くの入り江に位置する小浜一番町は地下水が豊富など、名水「雲城水」がごんごんと湧きだしています。この湧き水は、市民に広く愛飲されているようです。町中の生活の中にある名水です。



# 文化と人と海の恵みを都へ運んだ 「鯖街道」

建設コンサルタント会社に勤務する私は、鯖街道をレポートすることとなる。当誌「クリエイティブ」の性質上、「街おこし」「コミュニティ」「地域高規格道路」「土木遺産」などという言葉が頭の中でグルグル。何はともあれ、さわやかな風に誘われて、取材旅行に出発！

編集委員：株式会社 建設企画コンサルタント 山田 麻由

## 京をめざして鯖街道十八里

「鯖街道」という名前は、昭和50年代に、ある小説家が小説の中で若狭街道をそう呼んだところから広まったそうである。日本海と都を結ぶ古代からの重要な道である。江戸時代、早朝の小浜を出発した一塩物の魚が京の都を目指して運ばれた。その中でも代表的な魚が鯖であった。一昼夜を経て京都に着く頃には旨味が増して、食するのに最適の頃合いとなる。その古の道をこれから“現代的に”辿ってみることにしよう。デジタルカメラ、デジタルビデオ、ヴォイスレコーダーを車に積み込んで。

## その昔、宿場で栄えた熊川宿

小浜を出発して最初のポイントは、「熊川宿」である。ここ熊川は、若狭と近江を結ぶ位置にある。江戸時代には藩の保護を受けて、宿場町として大いに発展を遂げた。道の駅「若狭熊川宿」には資料館が併設され、往時の鯖街道が映像やジオラマで再現されている。現在では「上中町熊川宿伝統的建造物群保存地区」として、熊川宿特有の建造物の保存や町並



みの特性を生かしたまちづくりが積極的に進められている。電線は埋設され、各家庭の玄関には木製の郵便受けが取り付けられている。

## ゴロゴロ回る先人の知恵

旧道に沿った家々の前には「前川」と呼ばれる昔からの用水路が流れている。水は澄んでおり、水量豊かで、町並みに清々しいアクセントを添えている。その「前川」の流れにゴロゴロ



「芋洗い器」は笑顔のリズム

回る水車のような物体を発見した。「芋洗い器」である。縁台に腰掛けた一組の老夫婦が、近年都会から人が訪れるようになったので、昔使っていた「芋洗い器」を復活させてみたという。ご夫婦は最近まで軽トラックに海産物を積んで山奥の村々を行商していたのだそうだ。

「芋洗い器に里芋を入れて、『前川』の水につけて20分も回せば見事に皮がむけて真っ白になるんですよ。」竹と木でできており、円筒形の側面に里芋を入れるための窓がついている。手にとって見せてもらおうと、昔の人の知恵が産んだすばらしい工芸品であることがわかる。



## 人をつないだ休憩所「ガッターリ」

家の前面に「ガッターリ」と呼ばれる折りたたみ収納式のベンチを備えてあるのも熊川宿の特徴である。今ではもう使われることもないのだろう。その昔宿場町として栄えていた頃は、行き交う人々がここに座り、



見知らぬ人同士語り合ったり、背負った商品を並べたりしたのかもしれない。この熊川を通して運ばれたのは、海産物や米などの物資だけでなく、口から口へ伝えられる「情報」も重要な運搬物であったに違いない。「インターネット」が登場する遙か昔の話である。

## 人があふれる日曜朝市、道の駅「朽木新本陣」

武家屋敷のような建物、道の駅「朽木新本陣」に到着する。この道の駅は、日曜朝市が有名で、朝市には近隣の町村や京阪神からも人が押し寄せるらしい。今も昔も市の賑わいに人々の心が沸き立つのは同じだ。人気商品は「栃餅」「鯖のなれずし」「椎茸」。中に入ると、地元の方の手工芸品や地元の食材

を使った加工品が展示販売されている。ここは朽木の中心地、「市場」である。江戸時代にはその名が示すとおり海産物、農産物の集積地であった。

ところで、道路にも駅があることはご存知だろうか？道の駅はドライバーが安心して自由に立ち寄れるパーキングエリアとして、沿道地域の文化、歴史、名所、特産物などの情報を提供する場として活用されている。また、地域のコミュニティスペースとして利用されているところもあり、全国で701、近畿では85の道の駅が登録されている(2003年5月現在)。ドライブ途中で道の駅めぐりも楽しいかもしれない。



道の駅「朽木新本陣」





鯖街道の鯖寿司、味いかに

名物鯖寿司を求めて、小さなスーパーに立ち寄ってみる。冷蔵のショーケースには、生鯖、塩鯖、焼鯖、「へしこ」の類から鯖寿司まで一通り揃っている。ふと目にとまった生鯖の「若狭の鯖」ならぬ「焼津の鯖」のラベル。これを興ざめととるか、昨今問題になった偽の食品表示のことを考えて良心的と受けとめるべきか。また、今では「焼津の鯖」もトラック輸送によって、「若狭の鯖」と一緒にここに並ぶの



かと変に感心。

いつになく真剣に鯖寿司を物色していると、真っ白な割烹着姿のおばちゃんが

いつのまにか厨房から出てきて、本式のすし飯の炊き方を指南してくれた。「正式にはね、『湯たて』という方法で米を炊くの。昆布ダシをとって、その昆布を引き上げた後、洗った米を入れて炊くねん。けどね、微妙な水加減を間違えると芯の残った炊きあがりになってしまうねん。値が高うてもそんな鯖寿司にあたら、災難だわね。」おばちゃん特製の鯖寿司はきっとおいしいに違いない。朽木から葛川へと向かう街道沿いには、名物の鯖寿司を売る専門店、飲食店が建ち並んでいる。

四季を彩る葛川

花折トンネルの手前に、大津市葛川地区がある。葛川は安曇川の上流で、大津の街とは気温が3~4度も違うという。春には山菜採り、夏はアユつり、秋は紅葉、冬はスキーと四季折々に自然を満喫させてくれるところだ。川沿いに大きな茅葺き屋根の家が目に入る。葛川少年自然の家、森林キャンプ場などが建ち並んでいる。夏休みには大津市内をはじめ、遠く京阪神方面からも若者や家族連れが訪れ、賑わっている。この日は、芝生が広がるキャンプ場に高校生だろうか、バーベキューを楽しむ姿がみられた。

また、葛川は天台座主慈円が行者の修練をつんだ

ところだそう。慈円は「愚管抄」を著し、新古今和歌集の歌人としても有名。今でも近畿不動尊第27番札所である明王



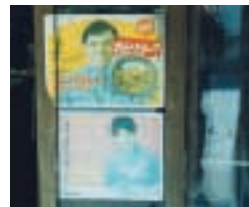
葛川森林キャンプ場

院という修験場がある。朱塗りの橋を渡って、ひっそりとした境内に佇むと、千日回峰行者の安息の地だということが実感される。

「自然の家」開設当初は、道路事情が悪かったそうだが、近年4つのトンネルと国道367号線が整備され、名神高速道路、湖西道路を使えば、大阪からわずか1時間半でやってくるができるようになった。昔、海産物を運んだ「鯖街道」は、今、都会人とやすらぎスポットをつなぐ「街道」となる。

ノスタルジー 万屋

さらに鯖街道を京都をめざして南へ進むと、仲平という集落が現れる。集落の中心辺りで、まさしく絵に描いたような「よろずや」を発見。入り口に張られた某食品会社のカレーの広告が心地よいノスタルジーを感じさせてくれる。



しばらく行くと、今度は道の左手にどこことなくカリスマ性漂う古民家を見つける。看板には「ぎやらりい 杉の道」の文字。こだわりの地酒、無農薬の野菜や果物、地卵、都会の高級スーパーで見るとような輸入食材までが売られている。また、和室をそのまま利用したギャラリーには手づくりの民芸品や尺八などの楽器、オリジナルの焼き物などが所狭しと並んでいる。カウンターで地酒片手に地元の食材で食事を楽しんでいるおじさん3人を横目で見ながら、さらに京都を目指す。



ぎやらりい杉の道

鯖も真っ青、花折峠は行者道

ついに、標高約500メートル、鯖街道の最難所である花折峠に到着。ところが、花折トンネルのあるところが花折峠とっていたら大間違いであった。

国道367号は花折トンネルなど、数個のトンネルでこの峠の下を通り抜けているのである。20年前にトンネルが開通するまでバスが通っていた峠道は、すっかり荒れ果ててしまっているらしい。旧道にあるという「花折峠」と刻まれた立派な石碑も今は誰にも振り返られないのである。ちなみに、日本のトンネル掘削技術は世界に冠たるものだそうだ。畑仕事中の姉さんかぶりの「熟女」が、「バスがすれ違うのがそれは大変やったわねえ。途中(という集落の名前)まで行くのに40分もかかりましたわ(今なら車で10分)。今じゃあ行者さんくらいしか通らはらへん。」と当時を語ってくれた。

ところで、「花折峠」という風流と不粋が入り混じったような名前の由来であるが、その昔、葛川坊村の明王院に参詣する人々がここでシキミを折って行ったそうである。花折れの花はそのシキミのことを指している。



花折峠の旧バス道

大原口、そこは鯖街道の終着駅

鯖街道の終点、「大原口」がある京都出町柳に何とか辿りつく。河原町今出川を少し西に入ったところに石の道標がある。「西 内裏三丁、北 くらま 二里半」とある。近くの家で、熊川宿で見たのと同じ「ガッター」をみつけた。熊川宿にしかないものと思いついていたので意外な発見である。今出川通を一本北に入ったところにある枳形商店街でも「鯖街道終点の鯖寿司」を抜き取り確認した。かつてはるばる日本海からやってきた鯖を寿司にして売っていたのであろう。京都の祭には欠かせない鯖寿司である。今も昔も街道は人、物、情報、文化などさまざまなものを運んでいるのだ。

「京は遠ても十八里」、鯖街道を平均時速60キロで駆け抜けた今回の旅、鯖街道への思いもここにきてちょうど熟成した頃合いである。



コラム

断層が美しい景観をつくる

花折峠を越えてちょうど鯖街道に沿って断層が走っています。全長約50kmの大断層は、花折断層と呼ばれ、北は滋賀県今津町から南は大原から京都大学のグラウンドを通っています。

花折断層は、1662年の寛文地震を引き起こしたとされる国内でも有数の活断層です。この断層によって形作られたV字谷の谷あい安曇川が流れ、朽木・葛川地区では美しい溪谷が見られます。



断層に沿って流れる安曇川





福井県の西部に位置する嶺南地域は、古くから「若狭」と呼ばれてきました。

この若狭地方は、伊勢、志摩と並んで古くから朝廷に食材を提供した「御食国（みけつくに）」と呼ばれ、現在でも皇室に献上されている若狭ガレイをはじめ、海、山の幸に恵まれている地域です。

ここ、若狭路では、交通基盤の整備が進められ、今年の3月9日には舞鶴若狭自動車道が小浜西まで延伸され、3月15日にはJR小浜線が電化開業しました。

このことにより、特に阪神地方からのアクセス時間が短縮され、大阪からは車で約2時間で若狭路にきていただけるようになりました。

こうした交通基盤の整備は、関西圏と若狭路との交流を推進し、観光振興をはじめとする若狭路の活性化と振興に大きく寄与するものと期待しています。

そこで、この機会を捉え、福井県、若狭路8市町村、民間が一体となって「若狭路博2003」を開催することとなりました。

「若狭路博2003」は本年、福井県の若狭路全域で開催されるイベントで、メインイベントと若狭路8市町村連携イベントで構成されています。



海会場イメージ図

**開催日時**  
平成15年 9月14日～10月13日（30日間）  
午前10時～午後6時  
（ただし土・日・祝 および9月22日は午後8時まで）

**開催会場**  
メイン会場：福井県小浜市川崎地区  
サブ会場：小浜市竜前地区および小浜市街

メイン会場

メイン会場（海会場）では、「千年の発見・千年の展望」をコンセプトとし、歴史館、未来館、恵み館等のパビリオンで展示を行うほか、交流ステージ等で、若狭路の他海外の伝統芸能を集めた「国際伝統芸能祭」等各種催事を開催します。

歴史館

若狭路の歴史と文化を紹介します。

若狭路の歴史・文化を紹介するもので、若狭路の豊かな食や自然、都や日本海を通じた国内外との交流を映像で紹介したり、小浜藩医であった杉田玄白の「解体新書」を切り口に、若狭路の歴史と文化を「若狭路歴史解体新書」として紹介します。具体的には「解体新書」の初版本とその原書である「ターヘルアナトミア」を西日本で初めて並列展示します。さらに、若狭路の交通ネットワーク発達の変遷とCATV等による情報ネットワーク網の整備を紹介します。



歴史館イメージ図

未来館

エネルギーの重要性和未来の暮らしを想像します。

エネルギー利用の発展に伴い人々の生活が便利になってきた様子を展示したり、二酸化炭素削減の重要性和エネルギーの供給地としての若狭路の役割、若狭路の未来を想像する未来技術、未来を創造する子供たちの創作作品等を紹介し、また、小学生を対象に、エネルギーや科学をテーマにした体験学習・実験ショーを実施します。



未来館イメージ図

恵み館

若狭路の豊かな食と食文化を伝えます。

若狭路の海の幸、山の幸、里の幸をタッチ水槽や水耕栽培によるトマトのオブジェ、菌床栽培などにより紹介するほか、著名人による創作料理の披露、若狭路に住む外国人による自慢料理教室、味噌造り体験ワークショップを開催します。また、期間中、若狭路の海、山の幸、食材を使った食を平日は500人分、土・日・祝日は2,000人分を無料で振る舞います。



恵み館イメージ図



若狭路時代絵巻（催事）



千年行列

海を通じた交流と歴史の行列  
象とともに街をパレード!

9月28日(日) - 海会場・里会場 -

小浜は日本ではじめて象がきた町です。室町時代、1408年、象が南蛮船に乗ってやってきました。仏画などで「象は白い」と思い込んでいた人々は、黒い象が大耳を揺らして、長い鼻を振りながら歩くのを見てびっくりしたことでしょう。その当時に再現して、本物の象とともに当時の衣装をまとった人々が、パレードを繰り広げます。象は將軍義持に献上されるために京都に運ばれ、その後さらに朝鮮王へ献上されたと記録されています。

水と炎のファンタジー

小浜港の闇の中で繰り広げられる  
躍動のエネルギーショー

連日の閉場前 - 海会場 -

開催期間中、「水と炎のファンタジーショー」でメイン会場（海会場）の一日を締めくくります。人類がはじめて征服したエネルギー「炎」と人類の源の「水（海）」との競演。音を絡め、レーザービームによる演出で彩りを添え、皆さまをファンタジーの世界へ誘います。小浜湾の闇の中で映し出される、これら躍動するエネルギーの鼓動に、千年の歴史と、千年の展望を感じてください。

国際伝統芸能祭

若狭路8市町村と各国の  
伝統芸能を披露します

随時 - メイン会場・交流ステージ -

天然の良港に恵まれた若狭には、大陸文化が渡来し、南蛮船も行き来した文化交流の伝統があります。若狭路8市町村の伝統芸能が披露されるほか、歴史的交流のある中国の京劇や武術、韓国の打楽器や舞踊、ロシアの民族音楽など各国の伝統芸能を披露します。



中国



韓国



ロシア



若狭路

サブ会場

山 若狭路の自然と歴史を体感

山会場では、「千年の体感」をコンセプトに、100万本のコスモス畑やファミリーでさつまいも掘り体験を無料で楽しめるさつまいも畑を用意しています。

また、森林をPRする施設である「森林（もり）の水PR館」で木竹加工体験など体験型イベントを多数行い、主に若狭路の自然を体感していただきます。

会場：JR東小浜駅より南に約600mの竜前地区

里 もてなしを演出する

里会場では、「千年の出会い」をコンセプトに、祭りゾーン、交流ゾーン、歴史散策ゾーンの各ゾーンを設定、「鯖灯籠流し」など地元の方のもてなしによるイベントを行います。

会場：JR小浜駅より北西方向の市街地一帯

若狭路8市町村連携イベント

若狭路8市町村連携イベントは、4月から11月までの8か月間、敦賀市、小浜市、三方町、美浜町、上中町、名田庄村、高浜町、大飯町の若狭路8市町村において、ウォーキング大会やマラソン大会のほか、8市町村がそれぞれ実施する特色あるイベントを含め、若狭路の魅力満喫できる約80のイベントを開催しています。

また、各連携イベント会場等でスタンプを集めて応募すると、若狭路の特産品が当たる「若狭路イベントスタンプラリー」も実施しています。

グーンと近くなった若狭の魅力

「若狭路博2003」で新発見!

「舞鶴道」が小浜西まで延びて、「舞鶴若狭自動車道」とその名も改められました。春にはJR小浜線が電化に伴いスピードアップし、小浜と京阪神が便利に、近くなりました。

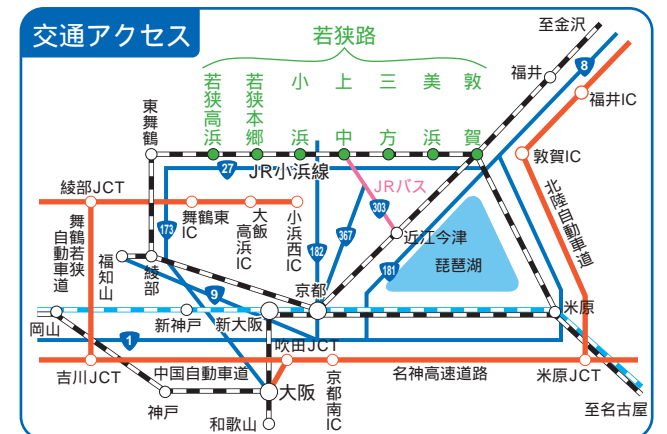
「若狭路博2003」の開催によって、各地との交流をさらに深め、若狭路の活力を増し、千年の未来を創造していきたいと考えています。「若狭路博2003」は、きっと福井県の魅力を新発見させてくれます。歴史と文化に彩られた、海の幸、山の幸満載の「若狭路」へお越しください。人情と豊かな自然いっぱいの「若狭路」がお待ちしています。

関連イベント お祭りシリーズ

若狭の伝統芸能や各地の祭りを凝縮

9月14日～10月13日 はまかぜ通り  
(土・日曜中心) ～海会場

山車に大太鼓、神楽に獅子舞など、今に伝わる伝統の息を感じてください。



問合せ先 若狭路博2003実行委員会  
TEL 0770-56-5900 FAX 0770-56-5912  
<http://www.wakasajihaku2003.jp>



# 吉宗 たずねて 和歌山城

株式会社 中山総合コンサルタント  
代表取締役 中山 清太郎

和歌山城は、天正13年（1585）豊臣秀吉が弟の秀長に築城を命じたものという。その後、浅野氏を経て、徳川家康の第10子頼宣が藩主となり、御三家の一つ紀伊、徳川家の居城となり、「南海の鎮」として幕府の西国支配の拠点として新たな役割を担うことになる。

城は紀ノ川と和歌山川に挟まれた和歌山市の中心部、小高い虎伏山にある。天守閣は国宝に指定されていたが、戦災により焼失した。現在の天守閣は、昭和33年（1958）に再建されたものであるが、清水を湛える内堀や城郭を巡らす石垣は400年の歴史をそのまま伝えており、往時の隆盛を偲ばせるに十分な遺構である。春は桜、つつじ、秋は紅葉の名所として、市民のみならず多くの観光客の目を楽しませ、歴史を偲ばせてくれている。

さて、紀州藩第五代藩主は、頼方といい、宝永2年（1705）に藩主となり破綻状態の藩財政を立て直しに乗り出した。頼方は後の八代将軍吉宗である。吉宗は緊縮財政と並行して「民間活力」の温存を図る政策を考え、緊縮財政で支

出を抑えると共に、増収の方法を考えた。その一つが、紀ノ川流域を中心とする大規模な灌漑による田畑の開発であった。治水家井沢惣兵衛を登用し、小田井、藤崎などの井堰を作るなど、河川改修、溜池の築造などに成果を上げた。これらの井堰は、今も貴重な土木的遺産として紀ノ川流域を潤している。吉宗は享保1年（1716）八代将軍になってからも全国的に大きな開発事業を行ったが、その政策の多くは紀州時代に培われたものであった。全国の治水工事は伊奈流（関東流）に変わって、紀州流工法が普及することになったという。藩主時代の吉宗は、天守閣から紀ノ川の流れに沿って広がる田畑を満足げに見下ろしていたに違いない。ところで、吉宗は身長六尺（約180センチ）を超える大



藤崎井堰

男で、色は黒く、力持ちであったらしい。テレビ時代劇「暴れん坊将軍」の所以である。

また、紀州藩では、温暖な気候と優れた土質・水質を生かした産業が発展した。代表はみかんである。また日本の醤油の起源であるとされる湯浅醤油も藩の保護を受けて、その製法は全国へ広がった。浦々は、経済の中心大坂と政治の中心江戸を結ぶ海上交通の中継点として栄え、漁業においても、紀州漁民は全国に進出していった。船団による捕鯨が太地浦で盛んに行われていたことも良く知られている。

さらに、御三家故に、幕府に対してある程度独自性を持つことができたこともあり、学問や文化において数々の偉人を誕生させた土地柄である。医学の分野で、世界最初の全身麻酔による手術を成功させた華岡青洲などはその代表であろう。これらの歴史は今へと受け継がれ、人々は進取の気性に富み、質実剛健の気質であるといわれるところである。

和歌山市内には徳川家ゆかりの寺院など、数々の名所旧跡もある。和歌山城から紀ノ川を眺め、吉宗の時代に思いを馳せる東の間のタイムスリップ。「どうよーおまん、つれもて、いっぺ来てくれるか！」



手が届くほどの低いひさしの家並みが残る「嘉家作丁（かけづくりちょう）」

# 奈良歴史街道の旅

株式会社 シードコンサルタント  
経営管理室 扇谷晴行

歴史街道は、日本史の舞台となった地域を結ぶ一本の帯、「奈良の歴史・文化」を楽しむことのできる街道です。歴史街道は、伊勢～飛鳥～奈良～京都～大阪～神戸を結び、古代から近代に至る奈良の歴史文化を学ぶルートになっています。歴史街道構想は、これらの日本史の舞台となった地域を活用し、「日本文化の発信基地づくり」などを目指しています。歴史街道には、時代の流れに沿ってたどるメインルートと地域の特性を活かしたテーマルートが設定されています。

## ●メインルート

### 奈良時代ゾーン

平城京を初めとし、東大寺、興福寺、奈良公園、薬師寺、唐招提寺、春日大社、奈良町などがあります。

### 古代史ゾーン

藤原京、高松塚古墳、橿原市今井町、飛鳥、石舞台、多武峰、室生寺などがあります。

## ●テーマルート

### 修験者・秘境ルート

吉野山、広橋梅林、谷瀬の吊橋、大塔宮黒木御所跡、玉置山、不動七重の滝、八剣山、大台ヶ原、大峰山、洞川などがあります。

## ●奈良の歴史街道

### 古街道ルート

柳生街道、山の辺の道、伊勢街道、伊勢本街道、伊勢南街道、東熊野街道、大峰奥駆道、西熊野街道、小辺路、葛城古道、竹之内街道、暗越奈良街道の12の街道、道、路に分かれています。

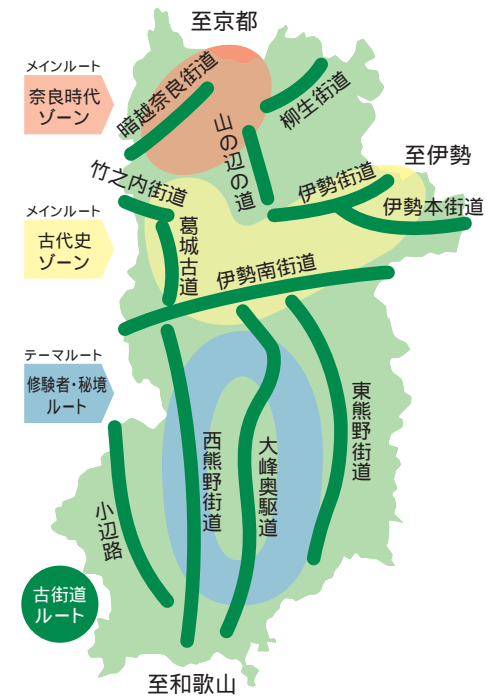
### 古代史ゾーンから奈良ゾーンへ

では、奈良歴史街道の一部を紹介してみましょう。

古代史ゾーンから奈良時代ゾーンを辿っていくと、都が藤原京から平城京へと移るのに伴って、北部へと人口が移動していったことが感じられ、同時に街道も確立されていく様子うかがえます。都（栄町）に向かって、必要最小限の生活道路から確立されていったのでしょ。

### 山の辺の道

古街道の一つ、山の辺の道は、奈良盆地東端の山裾をぬって、飛



鳥～三輪山の麓を通過して奈良に通じる古い道です。日本でも有数の古墳の密集地域に沿って南北に田園風景が続いています。北の基点、奈良市高畑にある聖武天皇の病氣平癒を祈願して建立された新薬師寺から、南の基点、桜井市金屋にある古代の市場、海石榴市跡（その名は海石榴観音のお堂の名として残っています）まで、四季折々に人々の目を楽しませてくれます。

奈良歴史街道には、法隆寺を初めとするたくさんの世界遺産が点在することはご承知のとおりです。文化・歴史の香りにふれる歴史街道散策が、あなたの人生の未来発見の旅となることを願います。



平城宮朱雀門



# 防護から自然再生へ

## —海岸とコンサルタント—

昭和31年にできた「災害からの防護」を目的とした海岸法は、平成11年に防護・環境・利用の調和のとれた海岸管理をめざして改正された。法改正を受けて、国が策定した「海岸保全基本方針」に基づき、各自治体では「海岸保全基本計画」を策定し、総合的な海岸保全を進めている。

「若狭・小浜といえば海を語らないわけにはいかないでしょう。」という熊谷氏に福井県・小浜の海岸保全基本計画について語ってもらう。氏は、福井市の出身ということで、若狭湾にはなじみが深く、海が好きで、コンサルタントという仕事を選んだという。



Profile 熊谷 健蔵  
工学博士  
パシフィックコンサルタンツ株式会社  
大阪本社 水工技術部 勤務

仕事柄、全国の海岸を見て歩きましたが、日本海側に若狭湾のようなリアス式海岸はめずらしく、残された自然の豊かさも他に類を見ません。沿岸は国定公園に指定されています。若狭湾沿岸というのは越前岬から京都府との県境までの338kmをいい、長い海岸線をくまなく見て歩くという膨大な作業でした。

### 海岸づくりに地域ポテンシャルを生かせ

荒々しい日本海のイメージの越前海岸に対し、小浜湾は半島に囲まれているため静かで、湾奥東側海面は養殖場としても利用されています。湾の中は穏やかで、湾の外は断崖絶壁というコントラストが素晴らしいですね。小浜港はまさしく天然の良港です。小浜の場合は、より良い自然資源があり、京都・奈良あるいは大陸とも結びつきが強かった歴史的経過もあって、まちづくりやレクリエーション施設と一体とな

った海岸の利用を促進させることをめざしています。残念なことに今までは、背後に住宅地や農地



長井浜海水浴場



よく見られるコンクリートの直立護岸

があるというだけで、専ら直立のコンクリート護岸が作られて、人が降りられるところ、砂浜などはほとんどない状況でした。そこで、海と触れあうことのできる、親しみのある海岸を作ろうとしています。コンサルタントとしては、整備指針の中で既存の技術を活用しながら、自然にやさしい、景観に配慮したものをできるだけ盛り込むような計画をしました。人工的に海岸を作ろうとしているところ（養浜・鯉川シーサイドパーク・長井浜海水浴場）もあります。直立護岸は階段状にするとか、砂の流出を防ぐ離岸堤も景観に配慮して、人工リーフという水面下に没しているサンゴ礁のようなものに変えていこうとしています。小浜湾内には天然記念物なども多く、地形地質を初めとして、貴重な動植物、昆虫、その他遺跡などいろいろな資源が眠っています。自然がまだまだ残っている若狭湾を大切にしたい。むやみな計画を立てずに、防護すべきところは最大限防護しつつ、できるだけ自然を復元できるようにし、自然と調和のとれた地域の利用を進めるということを基本理念にしています。

### 海を知り、人を知る

これまでと違って、今回は地元との懇談会を事業が始まる前に行いました。「長期的視野に立って、今後どう

やって海岸を作っていきますか」という話をしました。真冬の12、1月、雪が降りしきる時期でしたから、冬の日本海を実感しました。この辺の海は夏とは全く姿を変えます。防護という点でも、親水という点でも、あるいは最近のゴミの問題でも、海が生活に密着している地元の人のお話を聞くことは重要です。漁師さんはもちろん、地元の人たちの海に対する愛着というのを感じました。皆さんのニーズに応えていきたいですね。

平成15年1月1日に施行された自然再生推進法に基づいて、縦割り行政を廃し、多様な地域の方々と共に自然環境を保全、再生していく事業が始まります。これまでにない新しい発想が必要とされていると思います。そういう意味ではコンサルタントとしての活動の場が広がり、我々の腕の見せどころではないかとやりがいを感じています。日本は四方を海に囲まれていますから、生活と密接に結びついた海岸を良いものにしていきたいですよ。全国の海岸を見てきて、海というものを体感することができるようになったと思います。体感しないと住んでいる人の立場に立てないでしょう。これからも体感しながらコンサルしていきたいと思っています。

### 自然再生推進法における自然再生とは

過去に損なわれた自然環境を取り戻すため、関係行政機関、関係地方公共団体、地域住民、NPO、専門家等の地域の多様な主体が参加して、自然環境の保全、再生、創出等を行うこと。

# マタニティ・トーク

中央復建コンサルタンツ株式会社  
マネジメントグループ  
品質・環境マネジメント室 藤原 悦子



先日、市が開催している母親教室（妊婦の集会）に参加したときのこと、まだ通勤していることに驚かれ、また3本乗り継いで新大阪まで通っていることに驚かれ「電車乗ったら席譲ってもらえる？」などと聞かれた。「そんな扱いを受けたことは一度もないヨ～。これくらいのお腹ではなんのパンチもない」と笑って返したが、「譲ってくれるような人いないよ」と言いたかったわけではなかった。私自身しんどいなと思った時は1、2本ずらして乗るし、時間はかかるけれど電車を選べば何とかなっていたのである。

ある日の会社の帰りだった。いつものJRに乗り、つり革を持って立っていたら、「どうぞ」と目の前の男性に席を譲られた。身重になって8ヶ月、初めての出来事だった。

「いえ。次で降りますので、大丈夫です。すみません」と言ったが、とっさの出来事にあせり、それだけを言うのに二度ほど噛み、鉄橋にさしかかった際に足元はよるけ、言い終わった自分に「？」と思ったほど何を言ったのか分からない状態だった。その男性は「そうですか」と言ってすぐに席に戻られたのだが、私はその男性に「私、妊婦に見えました!？」、「私、しんどそうでしたか!？」、「どなたか身内の方に妊婦さんがいらっしゃるんですか!？」と色々質問をしたくなった。

初めて席を譲られて、嬉しかったというよりは驚いたというほうが正しかった。家に帰って夫に話すと「おれも譲らなあかんなあ」と言っていた。しかし、譲る方も勇気があるようで「もしかして太っているだけ?」とか「気のせい?」と自問するらしい。

まあ、それも分からないでもない。たしかにそういう中性的な人は存在する。

それから数日、私は知らない間に「譲って」とアピールする芸を身に付けてしまったのか、通勤以外の電車で、席を譲られることが増えてきた。

先日は、ドア付近に立っていると、優先座席の前に立っていた中年男性に「姉ちゃん、席あいたで」

と呼ばれて席まで連れて行かれた。他にも「すぐ降りますので」と恐縮したら「その駅までどうぞ」と譲ってくださった女性もいた。自分が妊婦になるまで分からなかったが、車内アナウンスの「体の不自由な方」に妊婦は多少なりともあてはまる。お腹が重たくなるにつれ、思うように動けなくなるし、疲れやすくなる。席を譲ってくださる方は、こんな妊婦事情を承知されているのかしら。

しかし、美談ばかりではなかった。地下鉄に乗ったときのことである。長いが半分くらいあいていた。そこへ中年男性と私が同時に座ろうとしてしまったことがある。身重でなければ「あ、あら」と私が座るのをやめて終わるのだが、男性は私を見て座るのをやめた。そして「どうぞ」と顎で合図をくれたが、そこへ中年女性（いわゆるオバちゃん）がどかっと座り、おまけに「あんたここ座り！」と自分の隣に娘を呼んだ。娘も躊躇していたのかすぐ座らずにいたら、そこへ小学生が座った。すると今度は私の前に座っていたカップルの女の子が黙って席を立った。おそらく私に譲ってくれたのだが、そこへまたそのオバちゃんが「あんたここ早よ座り！」と娘を呼び、娘は座った。対面に座っていた人たちは何を思っただろう。私は移動する場所もなく、つり革を持つと「よかったです座ってください」とさきほどのカップルの今度は男の子が私に席を譲ってくれた。あとから考えると笑ってしまうのだが、「すみません」と座らせてもらったものの、その時ばかりは気まずく、下を向いて車内のアナウンスを待ち、あと何駅か数えた。

今回の母親教室で、私は彼女たちに伝えなければならなかった。

「オバちゃんにご用心・・・」  
ではなく、

「席を譲ってくれる人、けっこういるヨ。」



## (社)建設コンサルタンツ協会近畿支部 会員名簿

福井県	(株)かんこう ☎06-6935-6920
京福コンサルタント(株) ☎0770-56-2345	基礎地盤コンサルタンツ(株)関西支社 ☎06-6536-1591
(株)構造設計研究所 ☎0778-52-5125	(株)橋梁コンサルタンツ 大阪支社 ☎06-6245-7277
(株)サンワコン ☎0776-36-2790	(株)協和コンサルタンツ 関西事業部 ☎06-6367-1635
シビル調査設計(株) ☎0776-23-7155	協和設計(株) ☎0726-27-9351
(株)帝国コンサルタント ☎0778-24-0001	近畿技術コンサルタンツ(株) ☎06-6946-5771
滋賀県	(株)近畿日本コンサルタント ☎06-6763-7131
(株)石居設計 ☎0749-26-5688	(株)近代設計 大阪支社 ☎06-6228-3222
キタイ設計(株) ☎0748-46-2336	(株)ケーエーケー技術研究所 ☎06-6942-6690
近畿設計測量(株) ☎0777-522-1884	(株)ケーシック ☎072-846-4641
(株)新洲 ☎077-552-2094	ケイエムエンジニアリング(株)大阪支店 ☎06-6242-8074
正和設計(株) ☎0777-522-3124	(株)建設企画コンサルタント ☎06-6441-4613
(株)日測 ☎0749-63-2096	(株)建設技術研究所 大阪支社 ☎06-6944-7777
京都府	(株)構造技研 関西支社 ☎06-6303-1280
(株)エース ☎075-351-6878	構造計画コンサルタント(株)大阪支社 ☎06-6394-2711
(株)ククチンサルタント ☎075-462-5544	晃和調査設計(株) ☎06-6374-0053
(株)キンキ地質センター ☎075-611-5281	(株)国土開発センター 大阪支店 ☎06-6622-1451
内外エンジニアリング(株) ☎075-933-5111	国土環境(株)大阪支店 ☎06-6448-2551
(株)吹上技研コンサルタント ☎075-332-6111	国土工管コンサルタント(株) ☎06-6243-3242
牧草コンサルタンツ(株) ☎075-611-5211	サンキコンサルタンツ(株)大阪支店 ☎06-6379-2022
大阪府	サンコーコンサルタント(株)大阪支店 ☎06-6305-4531
(株)アーバン・エース ☎06-6359-2752	(株)サンヨー ☎06-6787-3271
(株)アイ・エヌ・エー 関西支店 ☎06-6885-6665	(株)三洋テクノマリン 大阪支社 ☎06-6746-3401
(株)アサダ ☎06-6977-0055	三和建設コンサルタンツ(株)大阪支店 ☎06-6358-1691
朝日航洋(株) 西日本空情支社 ☎06-6338-3321	ジェイアール西日本コンサルタンツ(株) ☎06-6303-6971
朝日調査設計(株) ☎06-6357-5270	(株)修成建設コンサルタント ☎06-6452-1081
アジア航測(株)大阪支店 ☎06-6338-3751	新構造技術(株)大阪支店 ☎06-6282-1281
(株)アスコ ☎06-6444-1121	新日本技研(株)大阪支店 ☎06-4706-7001
イズミ建設コンサルタント(株)大阪支社 ☎06-6444-2331	住鉱コンサルタント(株)大阪支店 ☎06-6367-1124
(株)ウエスコ 大阪支社 ☎06-6943-1486	(株)スリーエスコンサルタンツ ☎0726-73-5885
(株)エイトコンサルタント 大阪支社 ☎06-6397-3888	セントラルコンサルタント(株)大阪支社 ☎06-6882-2130
(株)エミック 近畿事務所 ☎06-6344-2720	全日本コンサルタント(株) ☎06-6646-0030
応用地質(株)関西支社 ☎06-6885-6357	(株)総合エンジニアリング 大阪支店 ☎06-6647-8270
(株)オオバ 大阪支店 ☎06-6943-5161	(株)総合技術コンサルタント 大阪支社 ☎06-6325-2921
(株)オリエンタルコンサルタンツ 関西支社 ☎06-6350-4371	第一建設設計(株) ☎06-6353-3051
開発エンジニアリング(株)大阪支店 ☎06-6201-5612	第一復建(株)大阪本部 ☎06-6453-4321
開発コンサルタント(株)大阪支店 ☎06-6352-2813	(株)大建技術コンサルタンツ ☎06-6396-3011
(株)片平エンジニアリング 大阪支店 ☎06-4807-1857	大建測量設計(株) ☎06-6314-2800
川崎地質(株)西日本支社 ☎06-6649-2215	大成エンジニアリング(株)大阪事務所 ☎06-6990-4101

大日コンサルタント(株)大阪支社 ☎06-6838-1355	大日本コンサルタント(株)大阪支社 ☎06-6541-5601
(株)ダイヤコンサルタント 関西支社 ☎06-6339-9141	(株)ダイヤコンサルタント 関西支社 ☎06-6339-9141
大和設計(株) ☎06-6385-6101	玉野総合コンサルタント(株)大阪支店 ☎06-6452-9311
中央開発(株)関西支社 ☎06-6386-3691	中央開発(株)関西支社 ☎06-6386-3691
中央コンサルタント(株)大阪支店 ☎06-6268-2541	中央復建コンサルタント(株) ☎06-6160-1121
(株)長大 大阪支社 ☎06-6541-5793	(株)千代田コンサルタント 大阪支店 ☎06-6441-0665
(株)トーニチコンサルタント 西日本支社 ☎06-6316-1491	(株)東永設計 ☎072-285-7701
(株)東京エンジニアリング(株)大阪支社 ☎06-4791-0720	(株)東京建設コンサルタント 関西支店 ☎06-6399-2888
(株)東建ジオテック 大阪支店 ☎0722-65-2651	(株)東光コンサルタンツ 大阪支店 ☎06-6282-6660
(株)東洋技研コンサルタント(株) ☎06-6886-1081	(株)都市建設コンサルタント ☎06-6555-1661
(株)中川設計事務所 ☎06-6302-7301	中日本建設コンサルタント(株)大阪支社 ☎06-6363-3441
(株)浪速技研コンサルタント ☎0726-23-3695	南海カツマ(株)関西支社 ☎0722-41-8561
(株)日建技術コンサルタント ☎06-6766-3900	(株)日建設計シビル 大阪事務所 ☎06-6229-6399
(株)日建設計 大阪 ☎06-6229-6399	(株)日産技術コンサルタント ☎06-6944-0669
(株)日水コン 大阪支所 ☎06-6398-1658	日本技術開発(株)大阪支社 ☎06-6359-5341
(株)日本建設技術社 大阪事務所 ☎06-6321-5567	日本建設コンサルタント(株)大阪支社 ☎06-6453-3033
日本工管(株)大阪支店 ☎06-6449-5800	日本構造技術(株)大阪支社 ☎06-6447-2800
(株)日本構造物設計事務所 大阪事務所 ☎06-6533-6621	日本交通技術(株)大阪支店 ☎06-6371-3843
日本シビックコンサルタント(株) 西日本事業部大阪支店 ☎06-6309-7500	日本振興(株) ☎0724-84-5200
日本テクノ(株) ☎06-6346-4466	(株)ニュージェック ☎06-6245-4901

パシフィックコンサルタンツ(株)大阪本社 ☎06-6390-8450	(株)バスコ 西日本本部 ☎06-6214-6700
(株)八州 関西支社 ☎06-6305-3245	(株)阪神コンサルタンツ ☎06-6543-0201
(株)ピーエムコンサルタント ☎06-6263-5061	扶桑設計コンサルタント(株) ☎06-6533-6688
(株)復建エンジニアリング 大阪支社 ☎06-6838-3271	復建調査設計(株)大阪支社 ☎06-6392-7200
(株)ブレック研究所 大阪事務所 ☎06-6541-6161	(株)間瀬コンサルタント 大阪支店 ☎06-6385-0891
(株)水建設コンサルタント ☎06-6946-6131	三井共同建設コンサルタント(株) 関西支社 ☎06-6599-6011
明治コンサルタント(株)大阪支店 ☎0727-51-1659	八千代エンジニアリング(株)大阪支店 ☎06-6945-9200
(株)ヨコタテック ☎06-6877-2666	(株)横浜コンサルティングセンター 大阪支店 ☎06-6885-0964

兵庫県	(株)アキツ地建コンサルタンツ ☎078-261-9225
アサヒコンサルタント(株)兵庫支社 ☎0792-26-2014	(株)カイヤマグチ ☎0792-67-1212
国際航業(株)関西支社 ☎06-6487-1111	(株)武仲 ☎078-231-2791
(株)ナンバ ☎0798-65-8681	(株)ニコス ☎0796-42-2905
(株)日本港湾コンサルタント 関西支社 ☎078-251-6234	阪神測建(株) ☎078-332-5895
(株)ワールド ☎06-6489-0261	

奈良県	(株)ケー・エスコンサルタント ☎0744-27-3097
国土防災技術(株)関西支店 ☎0742-51-6950	(株)シードコンサルタント ☎0742-33-2755
和歌山県	(株)中山総合コンサルタント ☎073-455-6335
和歌山航測(株) ☎073-462-1231	和建技術(株) ☎073-447-3913
ワコウコンサルタント(株) ☎073-477-1115	

和歌山県	(株)ニュージェック ☎06-6245-4901
------	-----------------------------

2003年8月現在

### 第36回(平成15年度)業務研究発表会のお知らせ

第36回(平成15年度)業務研究発表会を(社)土木学会関西支部、(社)地盤工学会関西支部の後援により次のとおり開催することとなりました。ついては多数ご参加下さいませようご案内いたします。  
当発表会は土木学会認定CPDプログラムです。

#### 1. 開催日時と会場

日時：平成15年9月9日(火)9時~17時30分

会場：大阪科学技術センター

(大阪市西区靱本町1-8-4 TEL.06-6443-5324)

#### 2. プログラム

開会挨拶：近畿支部長 朴 慶智

9:15~9:25 401号室

第1部門：構造物・土質基礎・河川・道路・環境・調査ITの6部会、46題の発表を行います。

演題、発表者、時間、会場については、ホームページをご覧ください。

http://www.kk.jcca.or.jp/info\_news/gyoukenn.html

特別講演：「最近の建設情勢について」

国土交通省 近畿地方整備局 企画部 技術調整管理官 花岡信一

11:30~12:30 401号室

「持続可能な社会と交通 - サステイナブル・トランスポートへのアプローチ」

大阪大学大学院 教授 新田保次

15:50~17:20 401号室

第2部門(研究委員会発表)：① 都市交通とまちづくり研究委員会 13:30~15:40 小ホール

② 景観デザイン手法研究委員会 13:30~15:40 中ホール

第3部門(ビデオ)：13:30~15:40 405号室

開会挨拶：近畿支部技術部会長 福田 収 17:20~17:30 401号室

#### 3. 他会場

都市域の地盤防災研究委員会発表会

平成15年10月3日(金)13:00~17:00 大阪府立労働センター(エル・おおさか)709号室

参加  
申込み

参加費：無料(資料は当日配布します)

申込み方法：「はがき」または「メール」にて、氏名・勤務先・連絡先(住所・所属部課名・電話など)をご記入の上、平成15年8月25日までに下記宛にお申込み下さい。  
折り返し参加証をお送りします。

当日不参加の場合、参加証による資料のみの請求はおことわりいたします。

(社)建設コンサルタンツ協会近畿支部 業務研究発表委員会 宛

〒540-0005 大阪市中央区上町A番12号 建設保証ビル6F

TEL. 06-6764-5891

E-mail: gyouken@kk.jcca.or.jp

本年9月よりビル名が変更になります。

旧：建設保証ビル 新：上町セイワビル

### 編集後記

「クリエイトきんき」も第5号の出版の運びとなりました。今回は、9月に開催予定の『若狭路博』を契機に、博覧会のメイン会場となる小浜市を中心とした若狭地域をとり上げました。

若狭小浜は、古来より御食国として海産物を中心とした朝廷への食材の提供や大陸文化の中継地として発展してきました。その後、江戸時代は城下町、江戸から明治にかけては北前船で代表される港町として、蝦夷地(北海道)と京都・大阪を結ぶ流通の拠点として栄えてきましたが、今では、豊富な海産物や海水浴場など、漁業や観光のまちとして知られています。

若狭と都との物資、文化交流のなごりとしてよく知られているのが、『鶉の瀬のお水送り』や『鯖街道』でしょう。また、由緒ある寺社・仏閣なども数多く見られます。

さらに、まちなみ景観、海産物や観光などを中心とした『まちづくり』、『まちおこし』を行っている今の若狭小浜を知っていただくのもよいかと思います。機会があれば、若狭路博に来て、小浜のまちを散策してみませんか。鯖街道を歩いてみませんか。あなたにとって新たな発見があるかもしれません。

= 会誌等編集委員会 編集委員長 今村 克己 =